



## 中部横断自動車道八ヶ岳南麓 新ルート沿線住民の会ニュース

No.20 2015年10月10日 発行

### 「地域の活性化」のために何が必要か！

私の住む八ヶ岳南麓は都会からの移住者が多く住み、森の中にはクラフト作家の工房やカフェ、パン屋さん、ケーキ屋さんが点在する特異な地域になっています。一言でいえば自然の中で「活性化している地域」と言えるでしょう。

7月に白倉北杜市長と中部横断道についての初めての面談がありました。その時に白倉市長は「地域の活性化のために中部横断道の建設は必要」と強く主張したのです。「地域の活性化」は行政のトップとして重要な課題であるからもっともな発言ですが、私はその言葉に違和感をもちました。「地域の活性化」に必要なのは高速道路に代表されるインフラ整備が一番ではない。地域で生活している住民の意欲、



中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会運営委員会  
 <連絡先> 佐々木郁子 0551-47-6260  
 郵便振替 八ヶ岳新ルート住民の会 0220-7-50803  
<https://sites.google.com/site/odandonewroot/oshirase>

そして住民同士の信頼感こそ最も大事なこととっていましたから。

ここ八ヶ岳南麓の地域で国交省の新ルート提案によって賛成・反対の気持がぶつかり合うようになり地域の中に「亀裂」が表面化してきました。

中部横断道建設を望んできた人たちと自然の中での生活を望んで住みはじめた人たちとの間では当然にも意識の差はあり、コミュニケーションの少ない新旧住民の間に信頼感と反対の感情が発生するということは現実のこととなっています。

そして行政(市長)は意見(感情)の対立の解消に向けて何一つ具体的な行動をしてきませんでした。

市長(行政)にお願いしたいのは賛成・反対の住民間のコミュニケーションの醸成を継続しておこなって欲しいということ。あと一つ付け加えれば「中部横断自動車道新ルートの建設によってダメージを受ける人々」の側に立って物事を見ること。そして八ヶ岳南麓の自然の破壊につながる高速道路の建設に心を痛めている人々が数多くいることを知って欲しいのです。それなくしては「地域の活性化」や「良い街づくり」など砂上の楼閣になってしまいます。

<東 健治>

### 環境アセス勉強会報告！

沿線住民の会では、国交省の環境アセスメント調査に対して、私たち自身も八ヶ岳南麓の自然環境などについて理解を深めるため専門家の意見もまじえながら勉強会を開催しています。

突破口として開催した二つの勉強会について報告します。

#### 9/12 「八ヶ岳南麓の動植物」編

於)大泉総合会館にて

9月12日、八ヶ岳自然観察の会代表の伏見勝氏を講師にお迎えし「八ヶ岳南麓の動植物」と題し学習会が開催されました。

生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性など生物多様性のサービスに

よって大気・水が形作られていること、人間の活動・外来種・化学物質による生態系の攪乱・地球温暖化などにより生物多様性の危機が訪れると伏見さんは指摘されました。また、建造物によっても風の流れ・日照が遮られるなど微気象の変化によりそれもまた生態系に影響を与えると話されました。

30名ほどの参加者から「この自然を守りたい」との切実な声がありました。

生態系の頂点に位置する人間、私たちの活動は生態系、環境に大きな影響を持っています。改めて自分の生活の見直しを思ってみる。

錦秋の時を迎えようとしている八ヶ岳南麓、天気の良い日は空が高く澄みわたり山々のひだまでくっきり見え、田んぼの実りの色と相まって心が痛くなるほど美しい。

言うまでも無くこの風景は先人から続くここに暮らしてきた人たちによって形造られてきたものです。

この風景を遮り自然と景観を壊す「八ヶ岳南麓を横断する高速道路」は造ってはいけないと心から思います。



10・6 勉強会

## 10/6 「野鳥から見た八ヶ岳南麓の自然」編

於) 大泉総合会館にて

八ヶ岳のフクロウの生息密度は日本一！

10月6日環境アセスの勉強会が開催され、30名の参加者は講師の斉藤一紀さんの八ヶ岳のフクロウについての興味深い話に聞き入りました。

斉藤さんは八ヶ岳南麓には絶滅種を含め 180種の野鳥が生息していたことを明らかにし、フクロウは生物連鎖のピラミッドの頂点に位置しているが、環境の変化に弱いことを指摘しました。そしてフクロウを守るためにはそのピラミッドの底辺、八ヶ岳南麓の自然環境を守っていくことの重要性を訴えました。特に、フクロウの生息密度は日本で一番多く、中部横断自動車道の建設は生息地域を分断するので影響は大きいと指摘しました。

また、国交省の行う環境アセスは形だけのもので、委託するコンサルタント会社はせいぜい月 2回八ヶ岳南麓に来て調査する程度で結論を出さずさんな調査活動で終わってしまうこと、それに対して住民の側は 365 日データが取れるのでそれを蓄積して環境アセスの問題点を追及することの重要性を強調しました。

参加者からの、環境アセスに向け何をすればいいのかという質問に対しては、特殊鳥類、絶滅危惧種、準絶滅危惧種の鳥に注目して観察し続けていくことの大切さを強調しました。

## 北杜市に「森想 Mori sou 森を壊さない地域研究・提唱の会」発足！

9月15日、市内在住の樹木医 安藤義樹氏、園芸家 ポール・スミザー氏と有志が集い、地域森林の維持創造と森を壊さない為の学び合いと検証・市民への提唱を行っていく会を発足、その第一回交流会が行われました。当日は、安藤・スミザー両氏の経験に基づいた「森の恵みに感謝しながら、森に寄り添う暮らしに転換していく為のヒントとなるお話」を沢山伺いました。

八ヶ岳南麓を横断する高速道路が整備されれば、広大な面積の森や林が失われますが、現状ではルート沿線上の一部の住民の問題の様に思われがちです。

「森想」の活動には、北杜市在住のデザイナーがシンボルマークを提供する等、若い世代の積極的な参加もあり、多くの地域住民が森林のもたらす恩恵について学び保全していく活動を行う事により、高速道路問題を考えるきっかけとなるよう期待しています。今後も「森想」の具体的な活動について、沿線の会ニュースでも報告したいと思います。(猪原)

ロゴマーク



生物多様性と言う言葉を聞いてから久しい ブログ ◎種蒔き i s t、取扱い種苗一覧◎より

2015年9月12日、中部横断自動車道沿線住民の会の「環境アセス」勉強会で「生物多様性」について、改めて学び直した。講師は伏見勝さん。伏見さんは日本自然保護協会の自然観察指導員。山梨県庁の農政部職員でもある。「生物多様性とはただ様々な生きものがあるということではない。その生物たちがお互いにつながって存在しているという意味だ。命と命がつながっているということ。生物という以上、人も当然その生物多様性を構成している一つの生きもの。この生物多様性という世界ではあらゆる生物はひと繋がり一体のものとして成り立っている。だからこの世界ではある生命体の種が壊滅すれば、他の生命体の存在の危機に直結している。それが生物多様性と言う世界」伏見さんは明解に解いた。つまりこれは言い換えれば自然の事だ。自然＝生物多様性。この生物多様性の世界は食物連鎖と言うピラミッド型として表現されている。最下位にいる生きものはその直ぐ上の2番目の生きものの食べものになる。下位の命を得る事で、上位の命が存在する。そして次の3番目にいる生きものの食べものとして、命を提供する。これが繰り返されてピラミッドの世界を構成する。この生物多様性の世界の掟＝食物連鎖とは違う外敵――例えばそれは地震や津波、火山の噴火などの自然現象であったり、また人による開発であったり――によって、ある1つの命が奪われてしまえば、他の命は当然危険にさらされる。人はこのピラミッドの世界のどこにいるのか。人という生きものの上位には生きものがないから、人は最上位。つまり人は生物多様性が作り出して来たあらゆる恵み(＝生態系サービス)をすべて受けることで、しかも無償で入手する事でその命を維持している。しかしこの生物多様性の世界＝生態系が崩れた時、当然人の命にも危険が迫ってくることになる。上位に人の命を餌にする生きものがない、敵がない、つまりこの世界を最後に牛耳っているのは人だから、この世界に対し傲慢になる。何をやっても構いわしない。ここから自然を征服しようとか、技術を駆使すれば何でも可能だという発想が生まれてくる。かくてあらゆる人の行為は生物多様性を壊すことに繋がっていく。その行為が回りまわって自らの命の危機をもたらしてしまうという事に気付かないまま、あるいは意識的に忘れて、人は生物多様性の世界へ土足で入り込む。

例えば原発――

福島原発での原発爆発＝原発震災はもちろんの事、通常運転中でも原発は海水温め装置と言われるくらい、タービンを回す蒸気を冷却する必要があるが、そのために海水が利用される。熱交換されて温かくなった海水が海に戻され、周辺の海水温を温める訳だが・・・1秒間に70トンの海水を7～10度C上昇させるエネルギーとして、それも放射性物質を伴って――当然、その海の生態系は影響を受ける。魚や藻、貝などの命はどうなっていくのか。また現在、海や地下へ垂れ流し続けている福島原発の汚染水は生態系にどう作用しているのか。見えない事をいい事に、因果関係を証明できない事を免罪符にして、原発の稼働を続けて行く。これは人間による生態系＝生物多様性の世界への「犯罪」である。全生物に対する明らかな敵対行為。しかもそうであるだけでなく、その結果は巡り廻って、実は人の命を奪う事に繋がっているという自殺行為でもある。生物多様性の世界を物差しにすれば、あらゆる人の行為は「犯罪」と言えてしまう。辺野古の新基地建設しかり、リニア、乱立するメガソーラーパネル、そしてなによりも中部横断自動車道の延伸工事等、公共工事と言われるものはすべてこの世界への破壊行為だ。もちろん公共工事だけではなく、私達の日々の生活も小さいながらも生態系を壊している。

では人はこの世界とどう付き合えばよいのだろうか。どう振る舞えばよいのだろうか。

人が生きて行くのに欠かせない、空気や水をどこから得ているのかと言えば、言うまでもなくこの生物多様性の世界＝自然界＝生態系から。もちろんすべての生物がこの恩恵を対価を支払わずに得ている――出発点はここにある。まさに生かされているという事。

さかたまこと

\*\*\*\*\* CDのご紹介 \*\*\*\*\* 『夢のリニア超特急』

思いはあっても声にならない地元の人達の気持ちをつないだり、立場が違ってなかなか思いを伝えることが難しい人に伝えたり、その気持ちを全国的に広げていく事の助けに出来れば、無謀で独断的な計画を止めさせる可能性もまた見えてくるかもしれない。(案内文より抜粋)

■定価¥1000(税別)6枚¥5000(送料¥350)13枚 ¥10000(送料¥500)

■ご注文・販売協力の連絡先／森田修史 [sasagerecord@yahoo.co.jp](mailto:sasagerecord@yahoo.co.jp) FAX0265-48-0378

シリーズ 八ヶ岳のふもとの「日本ミツバチ」たち <秋編>

八ヶ岳のふもとは、日本ミツバチの野生群が、立ち樹のうろ(洞)などに巣づくりして、たくさん生息しています。我々愛好家の中には、これら野生群からの分蜂(春に女王蜂が子別れすること)を狙って採集する方も多いです。

既に家畜化された西洋ミツバチに比べ、日本ミツバチはたとえ飼育されていても野生種としての特徴を色濃く保っています。

その野生のゆえに、自力で生き抜く力を備えており「放任しておいても飼える」と利点の一方、気むずかしく「よく逃げる(逃去)」ので、飼いつづける事が難しいとも言われます。愛好家がのめり込む所以です。

在来野生種の証明ともいえる能力が、ミツバチの天敵とも言えるスズメバチへの対処法に顕著に見られます。例えば、オオスズメバチに襲撃された時、西洋ミツバチの場合は習性で一匹ずつ順番にかかって行くのですが次々にかみ殺され、やがて群れが全滅してしまう事になります。

ところが、日本ミツバチは、何匹もが一斉に飛び

かかり、自身の筋肉を震わせて発する熱でスズメバチを蒸し殺す「熱殺」という手段で相手に対抗します。これは、スズメバチが多い土地で生き抜くために獲得してきた能力と考えられます。

さて、春から夏に掛けて多くの花から蜜を採集した蜂は、巣箱いっぱい蜜を蓄え、秋の楽しみである蜜採り(採蜜)の時期です(写真参照)。蜜は、本来蜂たちが冬越し用に蓄えた物なので、冬を越せる程度の分を残して、人間がちょうだいする、という訳です。蜜の収穫量は群の大小にもよりますが5~20kgになります。

前報で「一匹の働き蜂は一生で小スプーン一杯分の蜜を集める」と書かれていましたが、何匹くらいの蜂が集めた事になるのでしょうか?

日本ミツバチの蜜は一年をかけて巣の周りで季節に応じて咲く様々な花々からの蜜を集めた物なので「百花蜜」と呼ばれて珍重されており、西洋ミツバチの蜜に比べ5割増し程度の高値で売られています。皆さんも、是非、一度お試しください。

八ヶ岳南麓日本みつばちの会会員 (K.N)



【答え】 小スプーンが一杯 0.5cc、蜜の比重が 1.4g/cm<sup>3</sup> として、5 kg ~ 20 kg の蜜は、約 7,700 ~ 30,000 匹が集めた事になります

会員&ニュース会員を募集中

会員：年会費2,500円、  
ニュース購読会員：1,000円

ニュースは年6回発行。  
会員およびニュース会員に配布されます。頂いた会費及び購読費やカンパ等によって沿線住民の会は運営され、ニュース発行の印刷代など諸活動の経費になります。ご了承ください。

また、会員によるメーリングリストも運用されております。

今後も多くの皆さま方のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。  
運営委員会

## 寄稿

## 高根町村山西割に太陽光発電施設が突然に・・・！！

それは、7月15日、隣家からの電話で始まった。

東京電力からの連絡で、隣家のすぐ裏の土地に太陽光発電の設置計画があり、その件で明日訪問するとのこと。突然な話で驚き、一緒に立ち会ってほしいと言われ承諾する。予定されている場所はわが家のリビングに隣接している。とうとうここにも太陽光発電が…。

東電側の話によると、この土地の樹木を伐採してソーラーパネルを設置する。電線を張る為に邪魔な庭木を伐採させてほしい等々、一方的な話だったので、まずは地域住民への説明をするよう事業主へ伝えてほしいと要求する。

同時に、「太陽光発電を考える市民ネットワーク」へご相談させて頂きながら住民説明を要求する署名活動を開始した。地域住民のご協力のもと、9月末までに115名の署名が集まった。その間も東電への連絡を続けていき、署名を送付する準備を整えていた矢先、設置を依頼された電気工事会社より連絡が入る。それは、事業主が今回の計画は中止とし、白紙に戻すという内容だった。長期戦を構えていただけに答えは意外だった…。

住民同士の情報を共有し早急に活動を開始したこと、住民の気持ちを伝え続けた事、そして何より地域の住民が一丸となって取り組んでいった事がこの結果を生んだのだと思う。今後も動向を見守りながら、住民の方々との連携を大切に、この素晴らしい景観の中で生活をしていきたい。

<高根町 遠藤>

## シリーズ 八ヶ岳南麓のここが好き

## 私の山の神

高根町村山西割字「山ノ神」の地に、小さな家を建てて、勝手に「山の神山荘」と名付けて、年に数回夫婦そろって遊びに来るとい生活約27年続けている。

たまたま、韮崎の工場に勤務する機会があって、学生時代(60数年前)に登った山々を眺めながら、人生の最終章を迎えたいという漠然とした思いで、土地を手に入れた。そこに、初孫が誕生することになり、夢はエスカレート。縄文人も好んだという、この素晴らしい八ヶ岳南麓の里山を、都会育ちで「いなか」のない家族の「ふるさと」にしたいという思いで、若気の至り、後先考えずに小さな家を作ってしまった。

地名の字「山ノ神」も、何よりも気に入った。「お前らしいな」と友人から揶揄されたが、マジで天神地祇の雰囲気を感じるのは私だけだろうか？ おそらく、今風に言えば、「ゼロ磁場」とか「パワースポット」というのだろう。学生時代、鳳凰三山で御来光登山をしたときに、遭難死された方の魂に出会ったことがあり、私と同じように、この地域にパワーを感じる方々も多いと聞く。私自身、面白半分話題にすることではないので、家族以外には、話したことはないが…。

夫婦生活も半世紀を超え、「いなか」を持たない我々夫婦に、この八ヶ岳南麓の里山や、ご近隣の方々とお付き合いが、与えてくれているものは、計り知れないものがある。年を重ねるにしたがって、「山ノ神」の呼ぶ声が、ますます強くなってきていると感じる。

今後永住するかどうかは未定だが、60数年前に、一目惚れしたこの地が、激しい環境変化の中で、その魅力を保ち続けてきたように、今後も、相変わらず、私たちや、子や孫の世代の「里山」として守っていかなければならないと思っている。長い間、この地を守ってこられた「山ノ神様」や「縄文の方々」に、笑われないように…。

<高根町S.H>

## 中部横断自動車道（長坂～八千穂）計画は今どうなっているのか

◆国交省は今年の3月末をもって、計画段階評価を終えたとしています。

ルートを決める時に住民アンケートを行ったけど、それと地元説明会での反対意見が多かったのに少数意見としたこと、甲府河川国道事務所が行ったルート帯の資料のねつ造などはどう扱われたの？

◆国交省道路局の係長は、「計画段階評価は適正に実施された」と言っています。

でも、いろいろ問題があったのにそれに目をつぶって「適正に実施」とは、誰が考えてもおかしいですね。沿線住民の会では今回の計画段階評価のやり直しを求めているのですね。

◆国交省は、今後は環境影響評価（環境アセスメント）の準備に取りかかると言っています。環境影響評価とは、高速道路を建設する場合、それが八ヶ岳南麓の自然や景観、生活環境に与える影響を調べる環境影響評価法という法律で定められた調査活動です。

高速道路ができるとどういった影響が出るかを調べるということ？ それなら、影響が大きいときはどうなるの？

◆環境アセスメントでは、これまでほとんどの場合、国交省の建設計画を認める内容で了承されてきたのが現状です。

それじゃ、初めに「結果ありき」ということ？

◆環境影響評価法では、住民、地方自治体の意見を聞いてそれを環境アセスに反映させ、必要な環境保全措置を取ることが定められています。さらにその報告書の作成も義務付けられています。したがって環境アセスを実施した結果、重大な影響が明らかになった場合には、国交省に高速道路の建設計画の見直しを強く求めていかなければなりません。

八ヶ岳南麓に高速道路をつくること自体が自然破壊になるのに、それだけでは不十分？

◆そのためにも地域の住民の側がもっと身の回りの自然を知り、理解を深めることが必要なのです。環境アセスといっても、国交省の行うやり方は型通りで、ある限られた期間しか調査しないで結論を出しているのが殆どです。1年を通じた自然の変化やそこにすむ生物の多様性に目を向け、総体としての自然環境、生活環境を観察することが大切なのです。

地域の自然を知ることが、国交省の環境アセスの問題点を指摘して高速道路建設計画の見直しにつながるのですね。  
さっそく取り組みましょう。

